

# 科学のたのしさ、おもしろさ

北溟中学校 山崎 真理奈

科学は、楽しい。

私自身が楽しいときは、子どもたちの表情も楽しそう。

私自身が面白くないときは、子どもたちもつまらない表情を見せる。

普通のことは楽しくない。普通では見られないこと、感じられないことを知った瞬間、人はワクワクし、それを探求し、誰かに伝え、驚いてもらったり喜んでもらったりすることを楽しむ。

私はその瞬間が大好きだから、子どもたちに理科を教えている。

新学期、初めての理科の時間、自己紹介とともに必ず『星の砂』の話をする。私の学生時代の研究テーマが星の砂だったからだ。

私は小さなころから海が好きで、磯で遊ぶのが楽しくて、2、3時間、カイやカニを触ったり、イソギンチャクに手を入れて吸い込まれるのを楽しんでいた。そんなこともあって、海に関する研究ができてとても嬉しかった。

だから、その話を子どもたちに伝える。

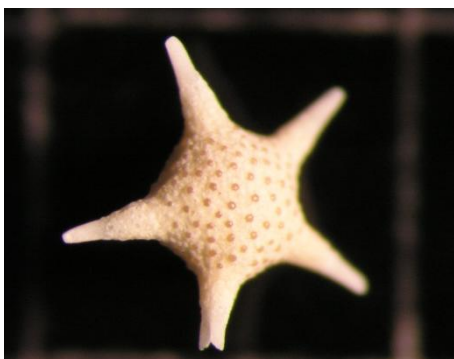
## 【サンゴ礁】

子どもたちの前で、『星の砂は、砂ではなく、生物の死骸の骨のような部分だ』と話すと、とても驚いた表情になる。私自身がそれを知ったときの驚きと同じように、やっぱり驚いてくれる。それが嬉しい。

だから子どもたちには、もっともっとたくさんの驚きや感動を実感し、体験して欲しい。



## 【星の砂】



## 【太陽の砂】



授業では、難しくてもその分できたときの嬉しさを味わえるよう、一人で実験できるものはさせ、色とりどりの教材をそろえ、見た目にも楽しめるように工夫しなくてはと考えている。

モーターをつくる時、1番に回った子はとても得意気な表情をみせる。誇らしそうである。すると、まだできていない子が、その子に聞く。またその子のモーターも回り出す。さらには、より早く回すためにはどうすれば良いか、それぞれが手直しを始める。コイルのゆがみを直したり、隣の子の磁石を1個かりてみて2個にしてみたりと、思いおもいに試行錯誤をかさねてより良いモーターに近づけようと必死になる。それもまた、おもしろい光景である。

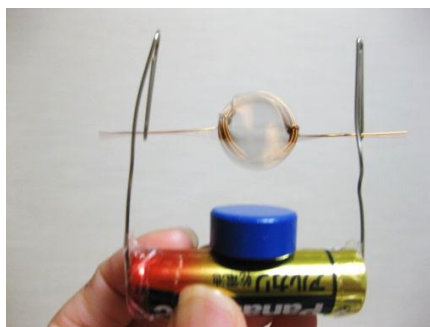
地層の学習では、断層・しゅう曲・不整合のでき方を、それぞれがカラー粘土で表す。まずは、色選びから。一人3色。班の中でより良い色を手に入れるため、ジャンケンに力が入る。色選びが終わったら、いよいよ作品制作である。3色で3段をつくると思いきや、6段の断層を作っていた。私の考えていたイメージ以上のアイデアを子どもたちは発揮する。私は、またここでも子どもたちに驚かされる。

こんな時間が、私は楽しい。

子どもたちの人生の中で、科学をしている時間が『記憶に残る時間』であってくれたらなと思っている。そして、その楽しさ、おもしろさをたくさんの人に伝えて、たくさんの人が驚いたり、嬉しくなったりする時間が増えたら良いなと思う。

私の人生に多くの感動を与えてくれる、楽しくておもしろい科学とのふれあいは、まだまだ始まったばかりである。

【手作りモーター】



【地層制作】

